



報道関係者各位

文教大学 次期学長に宮武利江（文学部教授）の就任が決定しました
2025年4月1日付け就任、任期4年

文教大学は、中島滋学長の2025年3月31日付け任期満了に伴う次期学長選出選挙を11月20日に実施し、次期学長候補者に宮武利江（文学部教授）を選出しました。これを受けて、12月17日に開催された学園理事会において次期学長就任が承認されました。

宮武利江氏は筑波大学第一学群人文学類卒業で、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得満期退学。専門領域は、日本語学、日本語史。文教大学に2002年4月に着任し、2015年4月から2023年3月まで文学部長、2023年4月より附属図書館長を務めています。文教大学としては、14代目の学長となり、学長就任は2025年4月1日、任期は4年間です。

◆次期学長プロフィール

宮武利江（みやたけ としえ）

1963年9月、埼玉県生まれ。筑波大学第一学群人文学類卒業、筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得満期退学（文学修士）。東京成徳短期大学講師、助教授を経て文教大学に着任し、2012年より教授。教務委員長、文学部長、附属図書館長等を歴任。

専門領域は日本語学（日本語史）で、主要論文に「〈ほのか〉とその〈類義語〉—源氏物語における用例を中心に—」（『森野宗明教授退官記念論集』1994年）、「“メタファー”としてのオノマトペ《その2》—通時的な観点から—」（『東京成徳短期大学紀要』第30号・1997年）、「比喩と感情表現」（明治書院『日本語学』第22巻1号・2003年）「あぢきなし」の基本的語義」（『文教大学文学部紀要』第20巻1号・2006年）、「古語「得」と現代語「得る」の用法について—「罪を得る」の違和感を解く」（北京大学『日本語文化研究』第11号・2017年）、などがある。

趣味は登山、スキー、ドライブ、モータースポーツ観戦、旅行、ワイン等。

（学長就任の抱負 および 経歴は別紙を参照）

■文教大学概要：

建学の精神／「人間愛」

在籍学生／8,405名（2024年5月1日現在）

越谷キャンパス（教育学部・人間科学部・文学部）、湘南キャンパス（情報学部・健康栄養学部）、東京あだちキャンパス（国際学部・経営学部）の3キャンパスからなる総合大学です。

<https://www.bunkyo.ac.jp/>

文教大学学園

〔越谷キャンパス〕 埼玉県越谷市南荻島 3337
教育学部 人間科学部 文学部
大学院 専攻科 外国人留学生別科

〔湘南キャンパス〕 神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100
情報学部 健康栄養学部 大学院

〔東京あだちキャンパス〕 東京都足立区花畑 5-6-1
国際学部 経営学部 大学院

〔旗の台キャンパス〕 附属中学校・高等学校 附属幼稚園
〔石川台キャンパス〕 附属小学校

◀発信▶ 学校法人文教大学学園

法人事務局 経営企画室 担当：常盤（ときわ）
〒121-8577 東京都足立区花畑 5-6-1
TEL：03-5686-8577(代) FAX：03-5856-5828
E-mail：wcntct@bunkyo.ac.jp

学長就任の抱負



文教大学は、1966年創立の立正女子大学を母体とし、1977年に男女共学の現在の形になりました。埼玉県越谷市にある越谷キャンパスと神奈川県茅ヶ崎市にある湘南キャンパスに加え、2021年に新たに東京あだちキャンパスが誕生して、3キャンパスに7学部、5研究科、専攻科、外国人留学生別科を展開しています。

文教大学の建学の精神は「人間愛」です。これは、あらゆる人を信じ、尊重すること、人に対するあたたかい思いやりの心をはぐくむということです。私たち教職員が学生に接する際はもちろん、学生どうし、教職員どうしも、この精神を体現してほしいと願っています。さらに、多様性が重視される現代社会において、在籍する人みながお互いを尊重し認め合う、そして誰もが活躍できるインクルーシブな大学として発展していけるよう、学長として啓発と実行に努めて参ります。

これまで、文教大学は「社会に有為な人間を育てる」という点で信頼を勝ち得てきました。現在、大学を取り巻く環境は厳しくなっています。未曾有の少子化、高等教育の大衆化に伴う入学者の多様化、そして社会の求める「大学像」も変化しています。このような状況においても、「人間愛」の精神を備えた「価値観が多様化した現代社会に対応できる」人間、言い換えれば「人に、社会に、必要とされる」人間を、これからも育てていきたいと考えています。

私が掲げております大学運営の方針は、「対話と協働による学生ファーストの実現」です。さまざまな場面で対話によって信頼を築き、その信頼を基盤に、同じ目標に向かって力を合わせて達成に向かうという姿勢で、「学生ファースト」の実現を目指します。その過程において学長の果たす役割は、ファシリテーターとして議論を調整・リードすることと考えています。具体的には、中核となる「総合学生支援」を「キャリア形成支援」「教育」「入試」「地域」「国際」「研究」の6本の柱で力強く支え、横断型の課題にも対応できる体制を構築して、熟議を重ねながら最適解を探ります。

＜総合学生支援＞

大学や地域における学生主体の活動に対して支援を拡充することも含め、現在様々な部署が行っている各種の学生支援を統括して学生支援体制の再編を目指すとともに、規程の制定や見直し等も行っており、個々の支援の充実を図ります。同時に、大学におけるダイバーシティ&インクルージョンの推進に取り組みます。

①キャリア形成支援

キャリア形成に資する講座やキャリア支援事業への参加を促進し、学生がキャリア形成マップを1年次から有効に活用できる環境を整えて、自身のキャリアデザインを、主体的かつ適切に設計できるようにします。

②教育

入学者の多様化に伴って、必ずしも単一の目的養成カリキュラムでは満足できない学生にも対応できるよう、学部学科の「専門性」外の学びにも体系性を構築します。共通教養科目のカリキュラムの見直し、他学部他学科科目の履修緩和などによって、副専攻に準ずる体系的な学修を可能にすることで、学生の入学後の興味の変化に対応し、新たな学びの方向性を主体的に選択できるような複合的な課程を提供します。

③入試

今後重要度の増す総合型選抜では、学部学科ごとにそのアドミッションポリシーをしっかりと反映させる入試形態を検討し、多様な評価軸・方法によって「学部学科とマッチする学生」の入学を実現します。また、学生ファーストの観点から、円滑な「大学での学び」に誘引するため、学部学科の専門性に応じた入学前教育を充実させます。

④地域

「教員養成の文教」に加え、「地域の文教」を新たなブランドイメージとして構築します。学生の学びの場を地域へと広げ、その交流の中で学生の「総合力」を育てるとともに、地域の子どもを育てる大学でもありたいと考えています。地域社会と大学との連携を強化し、各学部の特徴を活かしたボランティア活動や地域イベントへの参加を促したり、学生自らが事業を起案・運営することを促進・支援していきます。さらにこのような地域貢献プログラムを体験型の自由科目として単位化し、教職課程のオプションメニューとして履修を促すことで、質の高い教員養成にもつなげます。

⑤国際

国際的な学術交流の推進に向けて、日本語能力の高くない交換留学生の受け入れも可能にするため、英語で講義が行われる科目を学部横断で一定数用意し、日本語を学ぶことと並行して各分野の学修ができるようにします。

また、異文化理解教育や日本語教育といった領域を専門とする教員の地域での活動の支援、受け入れ留学生の日本文化体験機会の拡大などを通じて、地域の国際的課題の解決にも積極的に関わります。

⑥研究

教員の研究活動は教育の質の向上につながるだけでなく、学生の学びの深化にとって重要な役割を果たします。研究活動を促進するために、外部研究資金の獲得支援や研修制度の充実を含め、研究環境を整えます。また、国内外の他機関の研究者の受け入れや共同研究を推進する規程整備を行います。

これらの抱負を実現するために、学内外のステークホルダーと対話し協力しながらさらに具体的な計画を練り、行動に移していきたいと考えています。「育ての、文教。」の看板を一段と輝かしいものにできるよう、丁寧な教育を心がけつつ、地域社会との連携にも力を注いで、「地域の文教」としても認知される大学を目指し、全力で取り組んで参る所存です。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

主な経歴

1 文教大学における職歴

2002年4月	～	2007年3月	文教大学文学部助教授
2007年4月	～	2012年3月	文教大学文学部准教授
2012年4月	～	現在に至る	文教大学文学部教授
2015年4月	～	2023年3月	文教大学文学部長
2023年4月	～	現在に至る	文教大学附属図書館長

2 文教大学における校務歴

2003年4月	～	2005年3月	文教大学言語文化研究所研究部主任
2005年4月	～	2006年3月	文教大学越谷校舎教務委員
2006年4月	～	2009年3月	文教大学越谷校舎教務委員長
2009年4月	～	2011年3月	文教大学越谷校舎入試委員
2009年4月	～	2011年3月	入学センター管理部員
2011年4月	～	2013年3月	入学センター運営委員
2013年4月	～	2015年3月	文教大学越谷校舎教務委員長
2023年4月	～	現在に至る	文教大学審議会委員
2023年4月	～	現在に至る	文教大学学園評議員

3 専門領域

日本語学（日本語史）

4 所属学会

日本語学会

筑波大学日本語日本文学会